

金沢駅北土地区画整理事業

# 金沢駅東広場

あらたな伝統の創造をめざして





金沢市長  
山出 保

## 金沢駅東広場完成にあたって

平成10年3月に本格着工して以来、7年の歳月をかけた金沢駅東広場整備が完成し、このたび整備の経過をまとめた記録誌を刊行する運びとなりました。

金沢駅東広場は、平成元年に「金沢駅東広場及び金沢駅通り線整備懇話会」を設置し、その後「金沢駅東広場整備専門委員会」や「大屋根構造研究会」等で学識経験者をはじめとする関係の方々に熱心に議論をしていただくとともに、広く市民の方々のご意見も取り入れ、整備の基本方針を「伝統の広場」、「歩行者優先型広場」と定め、事業を進めてまいりました。

広場のドームは「もてなしドーム」と呼び、金沢を訪れた人々が雨に濡れないようにそっと傘を差し出す「もてなしの心」、「思いやりの心」を表現することにしました。また、いつの時代にあっても最先端の技術を導入していこうとする先人達の知恵に習い、アルミニウム合金とガラスを素材とした立体トラス構造と張弦材のハイブリッド構造を取り入れ、駅とまちづくりのあり様に一石を投じたつもりです。

さらに「鼓門」は、木製の集成材で構成され、藩政期から金沢で盛んな能や素囃子などに用いられる鼓をイメージした2脚の柱に緩やかな曲線を描く屋根をかけ、「金沢らしさ」を象徴いたしました。

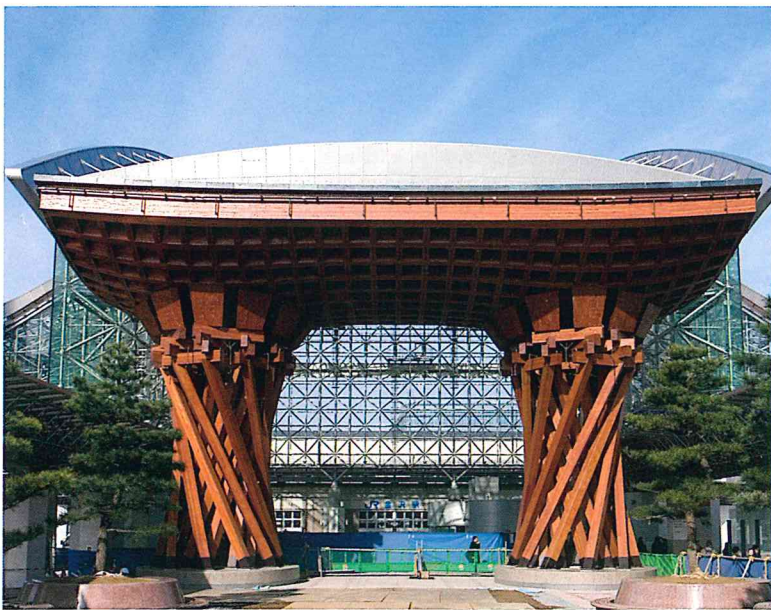
一般に、駅広場はまちの顔であり、その役割は大きくかつ重いものであります。本市では近年、駅西地区へ県庁が移転し、副都心化が進みつつあるこの地区と既成市街地の接点にあたる金沢駅東広場は、従来の交通の結節点から都市の核として、人々の交流や情報の拠点としての役割が一層高まってまいります。

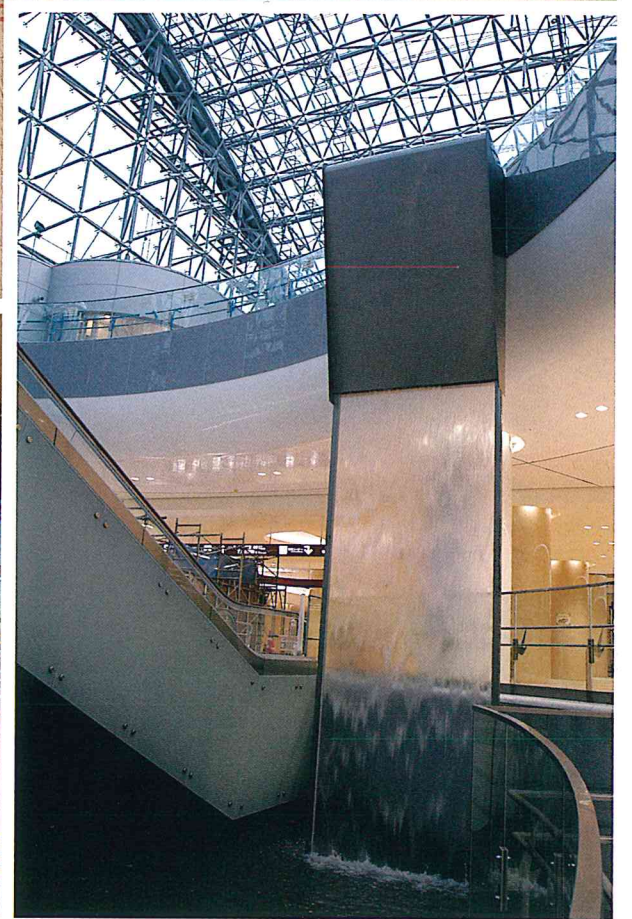
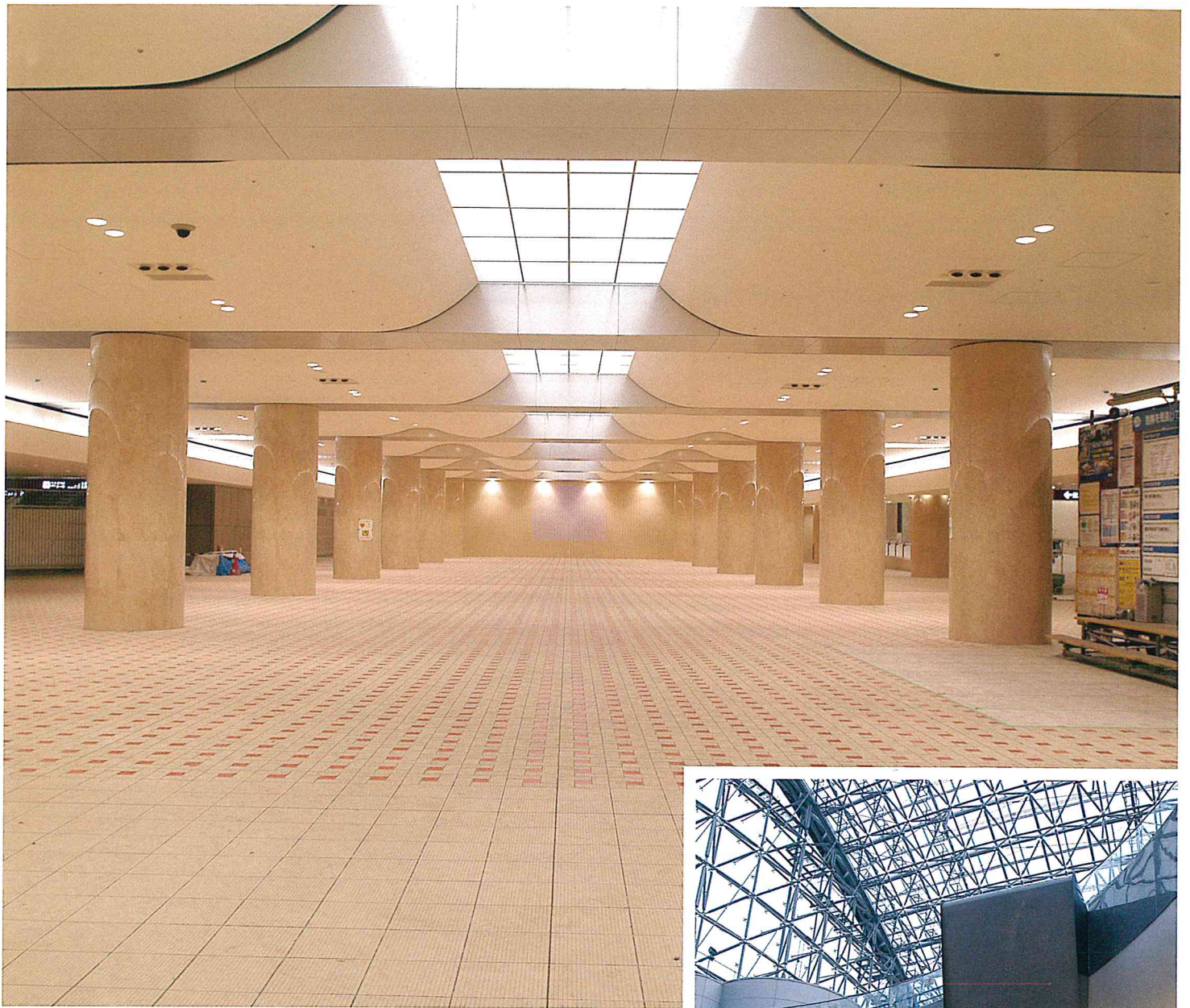
さらに、この金沢駅東広場と昨年10月、広坂通りに完成しました金沢21世紀美術館を結ぶ都心のメインストリートを「アートアベニュー」、「賑わい回廊」、「緑陰道路」と位置づけ、それぞれ三つのプロジェクトを進めて中心市街地の活性化に資することにしています。駅東広場は、まさにその起点にあたるわけです。

重ねて、駅東広場は、単なる交通広場ではなく広く市民や来訪者の交流の場とならねばなりません。地下一階に多目的広場を設けたのもこのためです。県立音楽堂をはじめとする駅周辺のいくつかの文化・情報施設とも連携し、情報発信のほか市民生活や観光・産業の全般にわたり様々な交流機会を創出し、まちの賑わいづくりと発展に貢献してまいります。

なお、この駅東広場は「金沢世界都市構想」の具現化の一環であり、独特の個性を持つ広場として国内はもとより世界各地にわがまち金沢を発信し、世界の国々との人的交流および経済・文化の交流を促進することができたらと願っております。

最後になりましたが、本事業の推進にあたり、永年にわたり並々ならぬご理解とご協力を賜りました関係権利者および市民の皆様、そして多大なご指導とお力添えを賜りました関係各位に深く感謝を申し上げてご挨拶いたします。





1. もてなしドーム
2. 鼓門
3. 地上の流水
4. 地下多目的広場
5. 地下広場情報コーナー
6. 地下の滝

1		4	
2	3	5	6

# 目次 CONTENTS

---

金沢駅東広場完成にあたって 金沢市長 山出 保

---

## 第1編 金沢駅東広場整備事業

---

① 計画の背景と考え方	5
② 金沢駅東広場整備事業のあらまし	6
③ 空間構成	8
④ 金沢らしさの創出	10
⑤ ユニバーサルデザイン	12
⑥ 環境との共生	14
⑦ 修景施設	16
⑧ 情報発信	18
⑨ 多様な地下広場空間	20
⑩ 事業の歩み	22

## 第2編 もてなしドーム誕生物語

---

金沢駅東広場(もてなしドーム)の考え方 小堀為雄	24
はじめに	24
1. 駅前広場の歴史は鉄道の歴史でもある	24
2. 機能上から見た駅前広場	24
3. 都市計画上の駅前広場	25
4. 金沢駅東広場整備計画のスタート	25
5. 駅東広場整備の基本方針	26
6. 駅東広場整備計画	26
7. 駅東広場の意匠計画	26
8. むすび	27

# 第1編 金沢駅東広場整備事業

## 1 計画の背景と考え方



上空から見た金沢市街



浅野川



兼六園



九谷焼

### ■金沢市の沿革と駅東広場整備事業

金沢市は石川県の県都で、北陸地方の政治、経済、文化の中心都市です。金沢の街は、犀川と浅野川の二つの清流と三つの丘からなり、中央の小立野台地の先端には緑に囲まれた金沢城公園と日本三名園の一つ兼六園があり、城下町として築かれてきた風土や精神に支えられた豊かな個性をもつ都市です。

金沢市では、平成7年2月に金沢の誇るべく貴重な個性を維持・発展させ、潤いのある市民生活をいっそう豊かなものとするため、内外都市との協力をすすめ小さくても世界の中で独特の輝きを放つ都市を目指す「金沢世界都市構想」を策定しました。

この構想にもとづき、今後は北陸新幹線の工事に合わせた金沢駅周辺地区の整備、金沢駅西副都心の整備、中心市街地の再整備、都心軸の交通混雑を解消し都市の骨格を形成する環状道路の整備など、保全と開発の調和を図りながら事業をすすめ、日本海国土軸および環日本海交流圏の中心に位置する中枢機能都市として都市機能の充実を図っていきます。駅東広場整備事業はその中心的な役割を果たすものです。

### ■計画の背景となる金沢の風土

#### ■多雨多雪の気候風土

金沢市は、人口45万人を有する都市としては世界でも数少ない多雨・多雪地域です。このような気候の中で屋内生活を重視した広い住宅がつくられるとともに、天窓から光を取り入れたり、外部空間の代用となる土間空間や土縁、土庇、雪囲い等の空間が工夫されてきました。多雨多雪地域の気候風土に対して、もてなしの動線、思いやりの機能処理が求められます。

#### ■歴史的重層性

戦災を受けていない金沢市内には、ほぼ400年にわたる歴史的財産が点在し、歴史的重層都市となっています。このような都市は、各時代ごとの特色がモザイクのようにちりばめられていて、厚みのあるアイデンティティが構築されています。また、歴史的重層都市は魅力的な景観をもっており、その中でもより魅力的な街になるためには、各時代ごとの要素がそれぞれの時代を代表する一級品であることが重要になってきます。歴史的重層都市金沢にあって、金沢に調和し歴史の試練に耐える現代のデザインと現代の先端技術の表現が求められます。

#### ■文化を作り続ける都市

金沢は有形・無形の歴史的文化的財が、お互いに刺激し、支え合いながら、幾重にも重なって存在し、現在もその喜びは続いています。このような文化財は、装飾や鑑賞のためだけでなく生活工芸として、市民生活の中にとけ込んでいます。駅東広場計画は、金沢の歴史的エリアへの玄関として、かつてあった生活の美学が持つ優しい心配りが至るところで生きるような「現代の生活芸術の舞台」をつくり、伝統を継承しながらも未来を触発し、未来の知的生活を予知させる計画である必要があります。

### ■計画の基本理念

#### ①「金沢らしさ」の創出

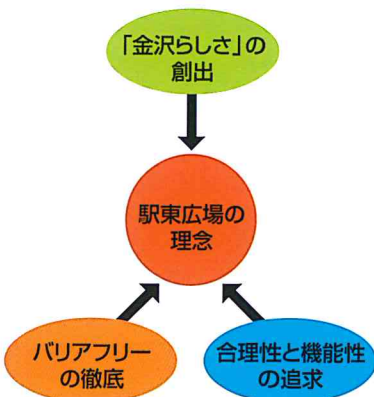
「伝統の広場」を近代的都市景観創出区域で計画するにあたり、伝統そのものではなく「金沢らしさ」として展開します。具体的には「金沢の伝統文化に根ざしながら、過去のものにとらわれず、新たな伝統を創り上げていこうとする考え方」で金沢らしさを表現します。

#### ②バリアフリーの徹底

「歩行者優先型広場」の考え方を反映して、充実した歩行者空間を確保するとともに、バリアフリーの思想を徹底します。

#### ③合理性と機能性の追求

交通ターミナルとしての機能性と合理性の確保及び情報や環境技術など時代の先端技術を表現します。



## 2 金沢駅東広場整備事業のあらまし

### ■金沢駅東広場事業の概要

金沢駅東広場の事業概要は次のとおりです。

- 位置 金沢駅北土地区画整理事業地内
- 規模 全体面積:27,000㎡
- 事業手法 金沢駅北土地区画整理事業(平成7年都市計画決定)
- 総事業費 約172億円
- 事業期間 設計:平成4年9月~平成14年3月  
施工:平成10年3月~平成17年3月

### ■地上広場計画

●地上広場は、「歩行者優先の広場」の実現として、充実した歩行者空間の確保とバリアフリーの徹底を掲げ、広場中央を歩行者に開放した「工(たくみ)型広場」を計画しています。工型広場を採用することにより、緑化スペースを含む歩行者空間は広場面積の約50%に及んでいます。

●歩行者空間のうち中央部は、幅35m長さ110mの大空間で、そこに水の流れ、地下への階段やエレベータ、総合交通案内所、植栽等を配置し、上部には金沢らしさの表現としてそれらを覆う大屋根(もてなしドーム)を架けています。また大屋根の正面には都市の門を表現する木造のシティゲート(鼓門)を設置しています。

●交通施設は、歩行者広場をはさんで北側にバスターミナル、南側にタクシー乗降場及びタクシープールと一般車乗降場及び駐車場を配置しています。各乗車場へは、バリアフリーの観点から、車道を横断しないで全てアクセスできる構造となっており、上部には利用者を雨雪から守るシェルターを連続して配置しています。

### ■地下広場計画

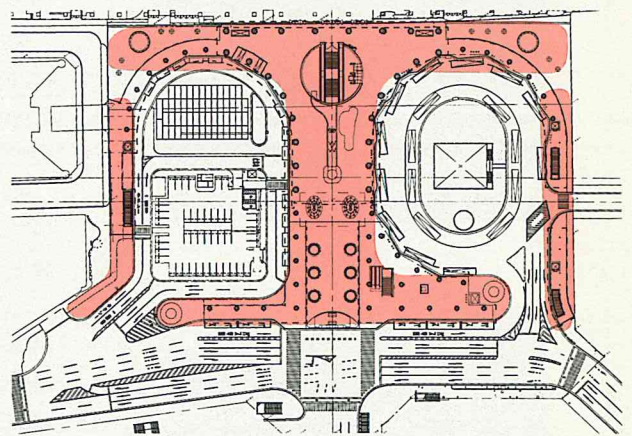
●地下広場は、多雨多雪地域の金沢市において重要な歩行者動線となります。中央の大規模な広場空間からは、駅周辺の5方面(石川県立音楽堂、堀川通り、ホテルイン金沢、金沢都ホテル、ポルテ金沢(ホテル日航金沢)に通じる地下通路を配置し、各通路にはエレベータを設置しています。また、広場と一体的に整備された北陸鉄道浅野川線の金沢駅に直接接続しています。

●地下広場の中央には交流の拠点となる多目的広場を、石川県立音楽堂との接続部分には情報コーナーを配置しています。そのほか、トイレや広場全体の防災と設備管理を行う中央監視室を設置しています。

●できるだけ自然に近い地下広場を実現するために、地上の流れから連続した滝と池の設置や大きなライトコートを計画し、地上から光を取り入れています。

### ■「工(たくみ)型」配置について

- ・歩行者中心の広場という観点から「工型」に歩行者空間を配置する。
- ・中心部は、36m道路(金沢駅通り線)に直結し、空間の連続性をもたせる。
- ・駅正面の中心となる広場及び鳴和三日市線沿いの空間を利用し、金沢らしさを演出する。



「工型」配置の考え方

### ■地上広場施設概要

#### ①交通施設

- 規模:広場面積19,400㎡(道路部分を除く)、南北約170m、東西約110m
- バスターミナル:乗車場11バス、降車場5バス、待機場8バス
- タクシー乗降場:乗車3バス、降車5バス、プール57台
- 一般車:乗降場4バス(うち障害者乗降1バス)、駐車場45台(うち障害者用屋根付き2台)
- ST車:2バス

#### ②付属施設

- 大屋根(もてなしドーム):建築面積約3,000㎡、最高高さ29.5m、アルミ合金のシステムトラスと張弦材のハイブリッド構造、屋根及び壁面の仕上げは強化合わせガラス
- シティゲート(鼓門):通路幅7.5m、最高高さ13.7m、屋根面の大きさ24.0×12.5m、米マツ集成材大断面木造構造、屋根は銅板一文字葺き
- 乗降場シェルター:建築面積約4,100㎡、軒高約4m、スチールシステムトラス構造、屋根は太陽電池組み込みガラス、柱はアルミパネルサイン組み込み
- 総合交通案内所(バス・タクシー案内所):面積67㎡、バス発券所、タクシー案内所、待合い
- 修景施設:水の流れ、噴水池(噴水時計)、湧水池、滝、植栽

### ■地下広場施設概要

#### ①広場

- 規模:延床面積10,550㎡
- 構造:SRC地下1階建て

#### ②施設

- 広場:多目的広場(プロジェクター、ステージ)、ライトコート(植栽)、休憩コーナー、情報コーナー(マルチビジョン、アクセスコーナー)
- 中央監視室:防災管理、設備管理、休憩室
- 機械室:受変電設備、非常用発電設備、給排水設備、換気設備、防火・防災設備
- トイレ:男女、ファミリートイレ(障害者用)2
- 倉庫:3箇所
- 昇降機:エレベータ5基、エスカレータ上下2基



地上正面



もてなしドームの内部



バスターミナル



地下通路

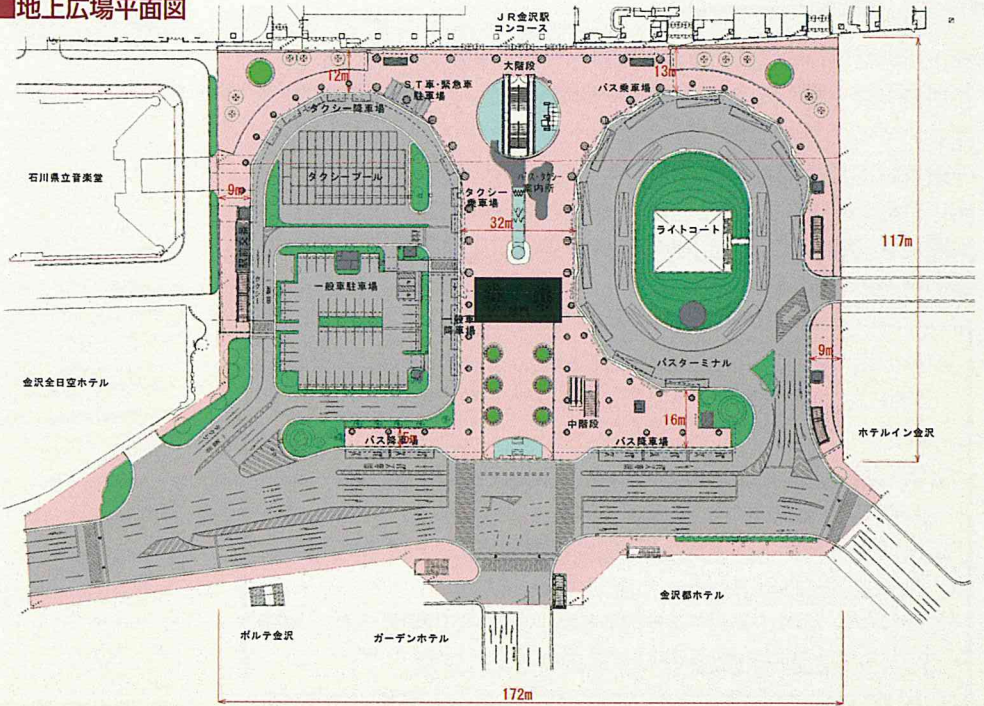


情報コーナー

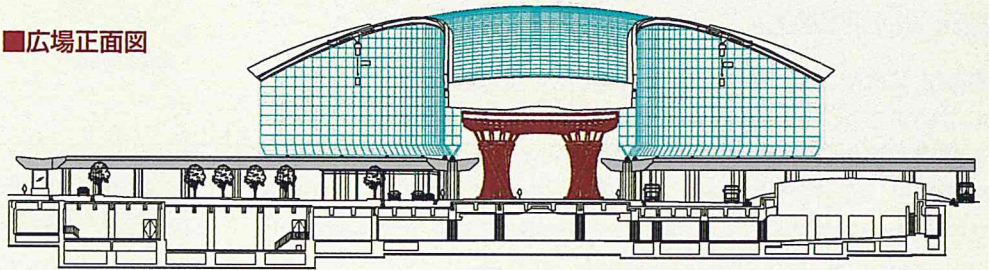


ライトコート

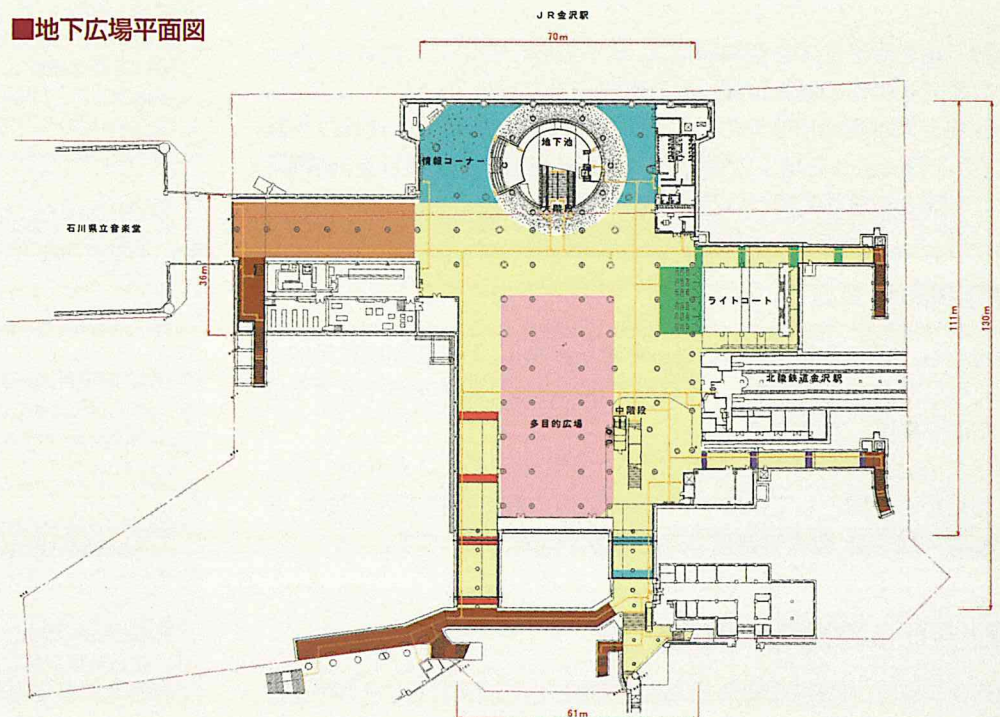
■地上広場平面図



■広場正面図



■地下広場平面図



### 3 空間構成 ～機能性と合理性～

#### ■ 4つの機能空間の統合

● 地上空間は、①歩行者動線や歩行者が他の交通機関へ乗り降りしたり切符を買ったりするような歩行者機能空間、②歩行者が機能からはずれてくつろぐ空間、③バスターミナル、④タクシープール及び一般車駐車場等の性格の異なる4つの空間で構成します。このうち歩行者機能空間には屋根を架け、もっとも動線が輻輳する部分には大屋根を設置しています。歩行者機能空間以外は極力工作物を設けない構成としています。

- ①歩行者機能空間（大屋根及び乗降場）／機能的、未来的、優しさを感じさせる雰囲気。光にあふれた水と自然石舗装の半屋外広場。
- ②歩行者くつろぎ空間（金沢駅通り線の軸を受ける広場）／金沢の自然を感じさせる水と緑の広場。
- ③バスターミナル／穏やかな曲線で構成する、伸びやかで力強さを感じられる広々とした空間。
- ④タクシープール及び一般車駐車場／効果的に植えられた植栽によって自動車が見え隠れする広々とした空間。

#### ■ 都心軸の明確化

● 駅東広場は歩行者優先の動線計画を行い、工型の歩行者空間を確保していますが、この工型の中央の歩行者空間と都心軸を一致させて、駅広場に降り立ったときに都市の構成がはっきりと意識できるよう計画しています。そして都心軸が駅舎と交わる場所に、この広場のシンボルでもあり、「もてなしの心」の象徴でもある大屋根を設けています。さらに中央の歩行者空間は、都心軸沿いにクロマツの列植を行い、床の舗装も明るい色に変えて都心軸の存在を明確にしています。

● 都心軸を明確にする空間構成は、地下広場においても徹底し、地下広場天井の都心軸の位置に大きな光天井を設けています。また、都心軸上の駅舎前には光のモニュメントになる大きな吹き抜けを設け、これによって地下広場においても方向感覚が失われず、非常時にも安全な地下広場としています。

#### ■ 空間のリズム

● 加賀百万石の気風を感じさせる意匠を目指し、駅東広場全体をゆっくりとしたリズムで構成し、一目見て整然とした印象を与えるように空間を構成しています。

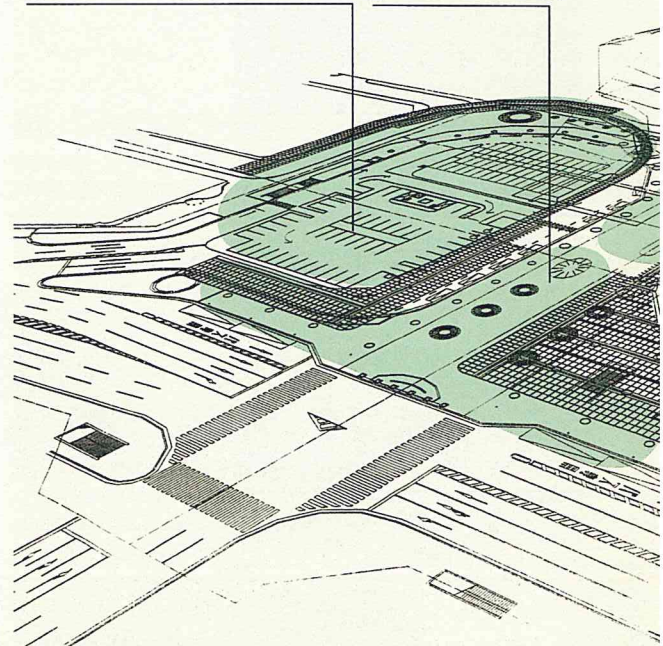
● 悠久の時の流れの中に位置づけられた都市であることを感じさせるための空間としています。具体的には広場に整備する施設は、長めのスパンや、骨太で整理された構造で構成しています。

#### ■ 上空からの視点への配慮

● 駅東広場は、長期的に見ると周囲を高層ビルで囲まれることが予想されます。上空からの視点にも配慮した屋根計画としています。

#### 空間構成

- ④タクシープール及び一般駐車場
- ②歩行者くつろぎ空間



■ 空間構成図

#### デザイン方針

4つの機能空間に対して、広場の景観を構成する次の要素を計画し、それぞれの個性を感じながらも全体としては調和を保ったおらかで力強く、金沢らしい景観を構成する。

##### ①大屋根(もてなしドーム)

豊かな屋根空間を内包したガラスの大屋根。先端技術の架溝を用いるが意匠的な工夫により柔らかく優しい印象を与える空間を構成する。(雪深い地方の精神風土である「もてなしの心、思いやりの心」のシンボル。屋根空間を工夫した北陸の建築的伝統、先進性を気負いなく導入するのが百万石の気風の反映となる。)

##### ②乗降場の庇(シェルター)

半透明の素材で構造体を包み時代の先端的な外観を形成しつつ、全体としてはシンプルで柔らかな印象をつくり出す。夜間は庇全体がぼんやりと光を発する。(機能に応じてきめ細かく庇を設け、「もてなしの心、思いやりの心」を表現する。)

##### ③新幹線駅舎のファザード

水平線に支配された巨大な壁面を用いて新幹線のスピード感や鉄道がもつ力強さを表現する。(質感と力強さで加賀百万石を感じさせる。)

##### ④シティーゲート(鼓門)

歴史を感じさせる骨太な木でつくられた門。雪受け庇と排気の機能を持つ。(歴史と現代の融合のシンボル。)

##### ⑤高木の列植と四隅の植栽

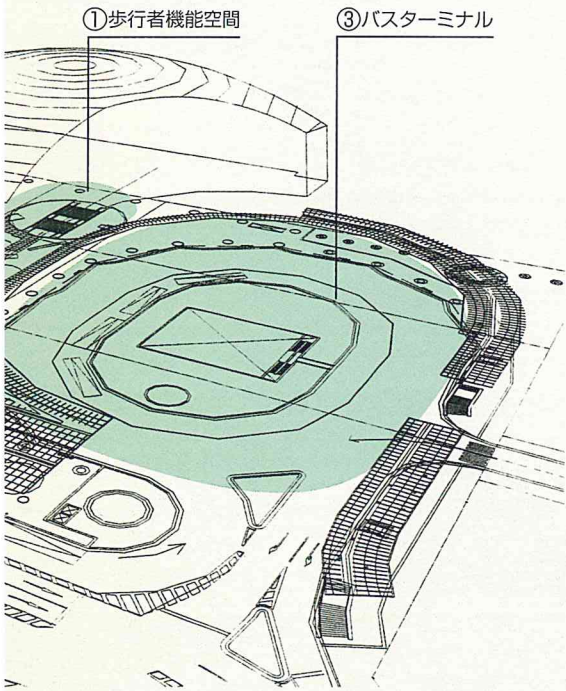
金沢駅通り線からの都心軸が持つ連続性を感じさせる高木の列植と、広場の領域を明確にする四隅の高木の植栽。

### ■都心軸と駅東広場の位置

都心軸は、高次の都市機能を適正に配置し、賑わいと格調高い都市空間の創出を目標として設立された都市の動脈で、金沢港から片町・香林坊に至る約7.5kmをいう。駅東広場は都心軸の拠点にあり、広域交通の結節機能や広域商業機能、宿泊・会議機能などを担うべき地区として位置づけられる。また、「金沢における伝統環境の保存及び美しい景観の形成に関する条例」において、近代的都市景観を創出すべき区域として位置づけられており、駅東広場をはじめとする公共機関の整備と民間建築物の誘導に際しては、世界都市金沢を象徴するような伝統環境との調和に配慮した近代的都市景観を形成すべき地区としての役割を担っている。



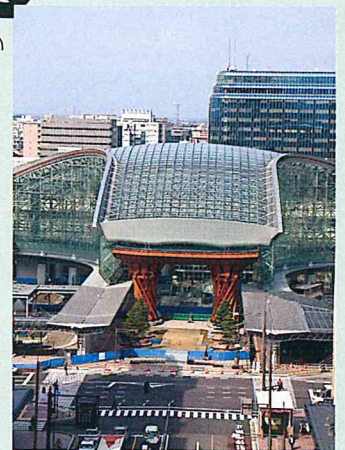
■都心軸図と駅東広場の位置



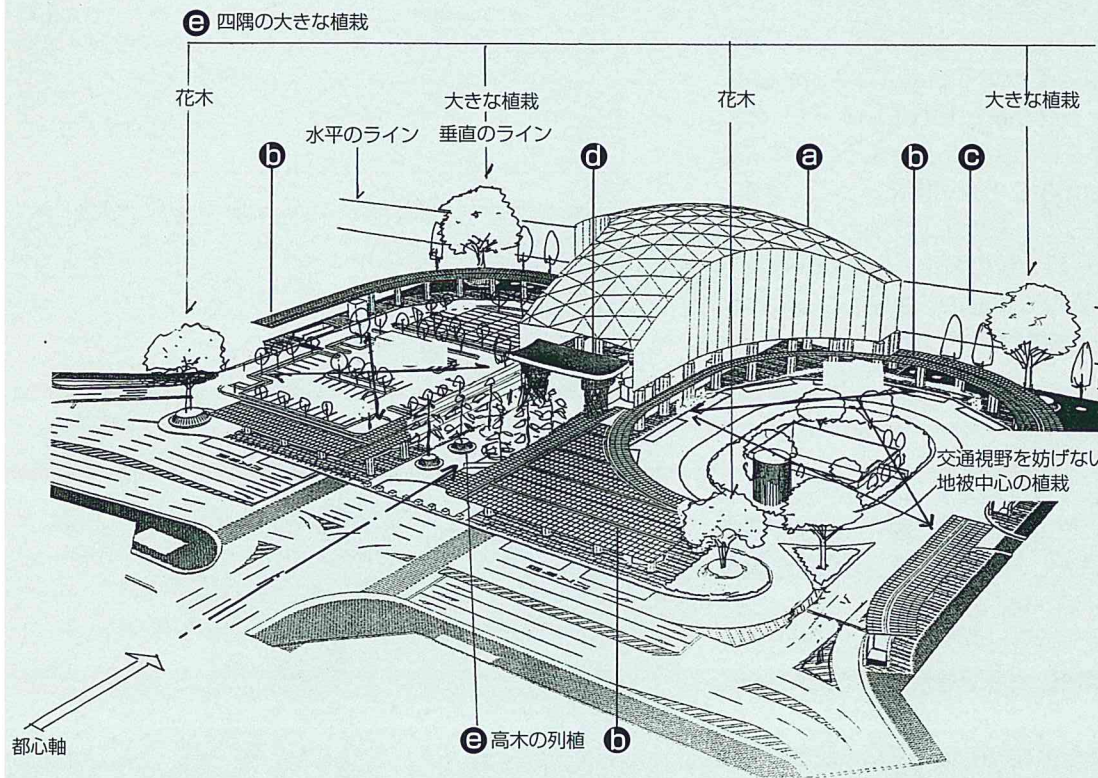
### ■上空からの視点への配慮



上空からの俯瞰



金沢駅通り線からの俯瞰



■デザイン方針図

# 4 金沢らしさの創出 ～金沢の伝統文化に根ざしながら、過去のものに

もてなしドームや鼓門は金沢らしさの具体的な表現です。

## ■もてなしドーム～思いやりの動線のシンボル～

金沢は年間降雨日数が半年にも及び、45万人を超える人口高密度都市として世界でも有数の多雨多雪都市であります。大屋根は、この気候風土に対し、人々が集う広場の上に傘を差し出すような「もてなしの心・思いやりの動線」を表現したものです。

### もてなしドームの形

もてなしドームは、半径90mの巨大な球の一部を広場中央の歩行者空間の形に合わせ、ちょうど三味線のパチの形に切り出した形状をしています。屋根や壁の上部はガラスで覆われていますが足下は開放されていて、防風板の間からバスやタクシーに乗降できます。

### 架構と素材

- ドームの構造は、耐久性、メンテナンス性などに配慮してアルミ合金を構造材とし、安全性や省資源を考慮して張弦材ハイブリッド立体トラス構造を採用しています。この構造の特徴は、屋根だけでなく壁面にまで立体トラスを採用していること、構造材としてアルミ合金を採用していることです。
- 地震力に対し立体トラスを補強するために、様々なケーブルが内部に使われています。特にドーム中央部では放射状に吊りケーブルが集まり、内部を星形のロッドで補強されたテンションリングを形成し、リングの4か所から四方に突き出された束により大屋根を支えています。このリングはステンレス製です。
- アルミを構造材に使った理由は、軽くさびに強い点です。そして、押出成形が可能のため肉厚を変えることにより、力のかかるところと一般部のパイプの太さを同じにすることができる点です。ドームには全部で約5,500本のストラット材が使用されていますが、その太さは2種類しかありません。パイプの太さをそろえることにより金沢らしい繊細なフォルムを創り出すことが可能になっています。
- 明るい駅前広場を実現するために、ドームの仕上げは全てガラスです。屋根と壁をあわせて全部で3,019枚の強化ガラスが使われています。このガラスは180cmの積雪にも耐える強度をもっています。ガラスの掃除は清掃ロボットが自動的に行います。

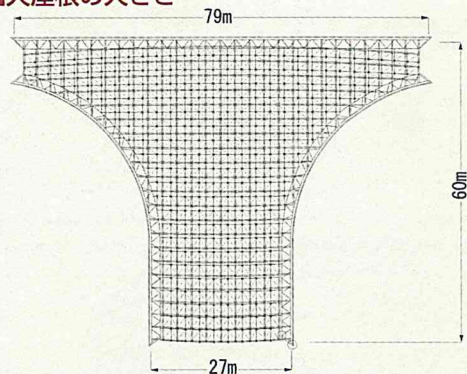
## ■鼓門～金沢の伝統を凝縮～

駅東広場のデザインは機能美・技術美を基本として、時代の最先端の技術を用い新しい伝統を造り上げています。その中で鼓門は、直接的に伝統を感じることでできる木造とし、金沢の伝統芸能の能や素囃子などで使用される鼓の胴にある「調べ緒」をモチーフにデザインをしています。都市の門として歴史のまち金沢の格調を伝えるとともに、大屋根の雪受け、地下広場の排気塔、大屋根雨水のパイプスペースなどの役割も果たします。

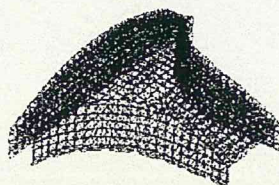
構造形式は、大断面で斜めに傾けた柱を楕円状に2重に配置した組柱を2つ並べて、その上に格天井の屋根をのせた構成になっており、屋根は大屋根からの落雪を受け止める形をそのまま造形化しています。

### もてなしドーム

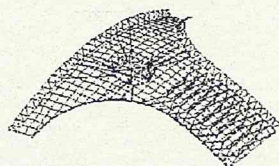
#### ■大屋根の大きさ



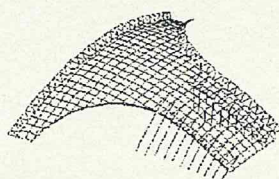
#### ■構造システムの特徴



●アルミニウム合金立体トラス構造  
軽量かつ耐久性に富む材料を使用した構造システムである。



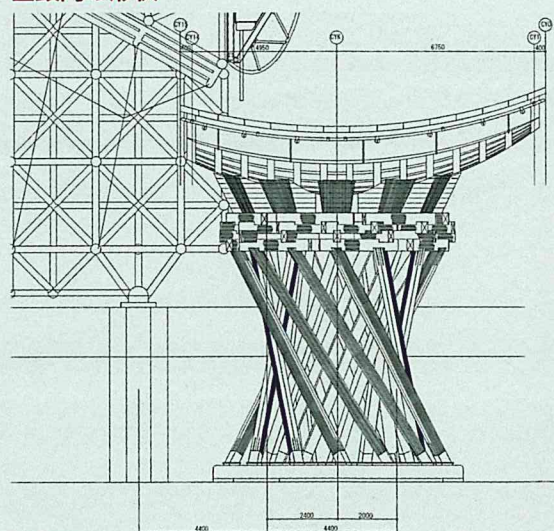
●張弦梁構造  
ハンガースtring (HS) に張力を導入することにより、鉛直荷重(自重、積載荷重)に対して、部材応力を低減する。



●スケルション構造  
ケーブルブレース (CB) に張力を導入することにより、水平荷重(風荷重、地震荷重)に対して、アルミニウム合金立体トラス構造に適正な剛性を付与する。

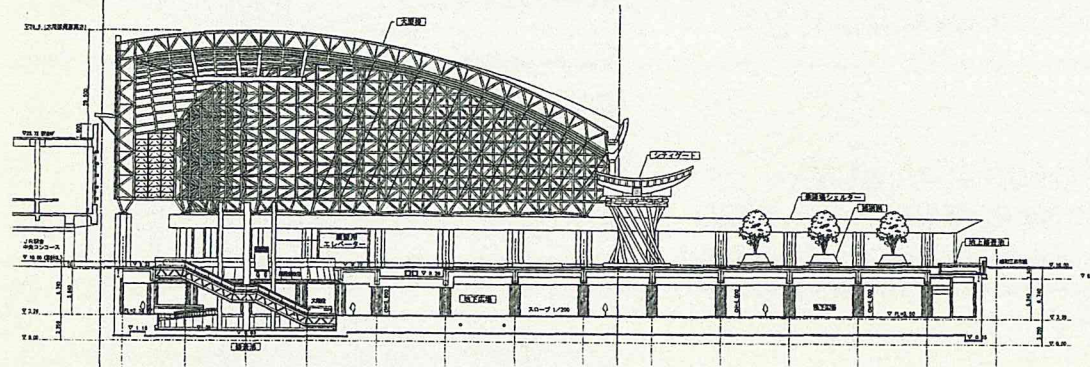
### 鼓門

#### ■鼓門の形状



■側面図

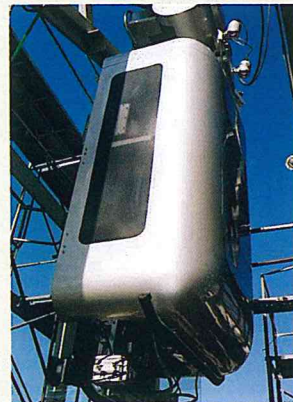
■断面図



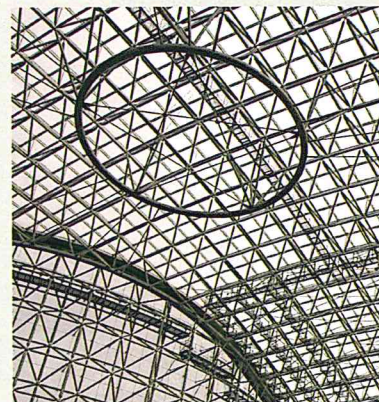
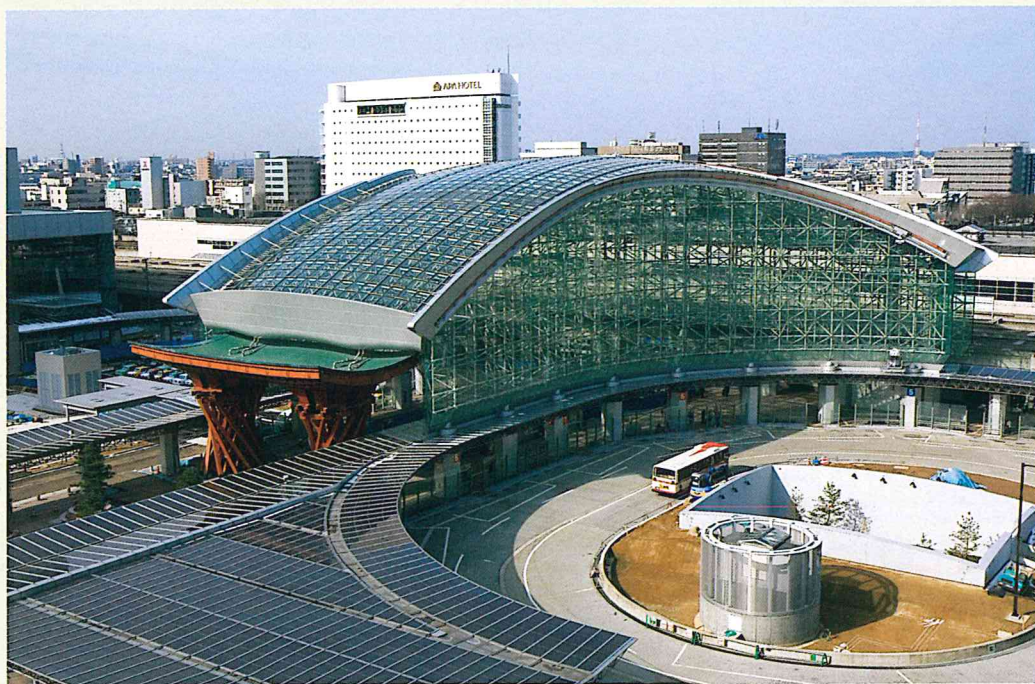
■壁の清掃用ロボット

仕様

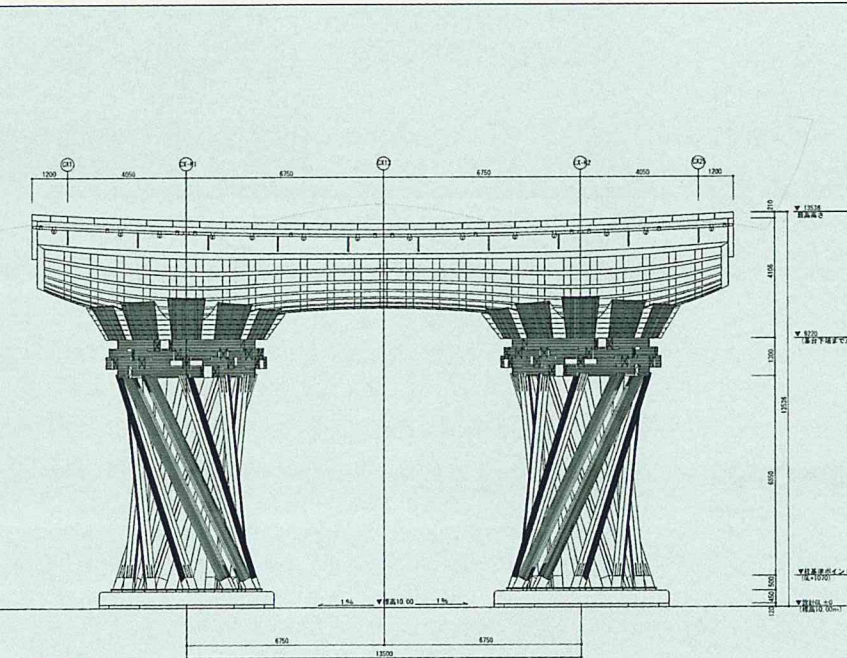
台数: 南面・北面各1台  
 対象面積: 約1,130㎡×2面  
 清掃能力: 8.3㎡/h  
 (24h稼働にて約200日㎡/日)  
 清掃幅: 820mm  
 運転方式: 全自動無人運転  
 水蜜型回転清掃ブラシ  
 移動気候: 吸着方式+ワイヤー仕上げ



■もてなしドームの全景



テンションリング



■正面図



鼓の調べ緒の形をデザインした鼓門



下から見上げた鼓門

## 5 ユニバーサルデザイン～安全でスムーズな移動～

駅前広場はお年寄りから子供、障害のある方など様々な人々が、安全に乗り換えや移動ができることが基本になります。駅東広場においては、次の様々な工夫によりバリアフリーな移動を実現しています。

### ■屋根を架ける

金沢の降雨日数は年間の約半分に及びます。駅広場利用者は、JRからバスやタクシーへ乗り換えたり市街地へ移動するたびに、傘を差す必要があります。JRのコンコースからバスやタクシー乗り場まで連続して、大屋根や乗降場シェルターにより、歩行者空間に屋根を架けています。子供を抱いた人や車椅子の人の移動も雨に濡れず楽に行えます。

### ■バスの正着

バス乗り場とバスのステップの間が開いていると、雪の日など足を濡らしてしまうことがあります。また、道路からでは段差がありお年寄りが乗るのに苦勞をします。楕円形のバスターミナルは、バスの軌跡に沿って乗り場が工夫されており、バスの乗降が楽に行えるようになっています。また、バスの一部までシェルターが架かっているため濡れず乗ることができます。歩道と道路の段差は15cmとし、低床バスが車椅子用のステップをのばした場合もほとんどフラットにすり着く高さになっています。

### ■楽な縦の移動

地下広場には連絡地下通路が5方向に伸び、周辺の施設と連絡しています。各通路にはエレベータやエスカレータが設置され、縦方向の移動が楽に行えます。エレベータは13人乗りで車椅子の方も乗ることができます。また、エレベータは全てシースルーになっており、防犯にも配慮しています。

### ■障害のない通路と安全な誘導

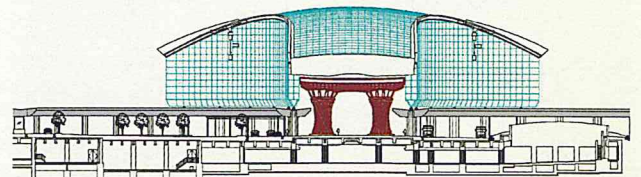
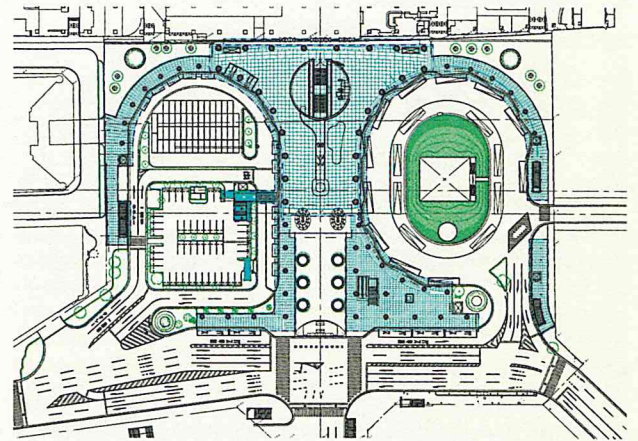
地上及び地下広場は段差のないフラットな構造になっています。地下通路も車椅子でも楽に移動できる5%以下の勾配になっています。また全ての通路には2段手摺りが設置されて、点字の案内がついています。視覚障害者の方には、誘導ブロック、点字サイン、触知図、音声誘導装置等により安全に誘導します。また、聴覚障害者の方には、非常時にはPDP（プラズマディスプレイ）の映像により危険を知らせ安全に誘導します。

### ■多機能なトイレ

地下には一般のトイレの他にファミリートイレが2か所あります。ファミリートイレには、乳幼児用のベッドをはじめ障害のある方が使いやすいトイレがあります。

トイレの入口には触地図による案内もされています。

### 屋根を架ける



■口屋根が架かっている部分

### 楽な縦の移動



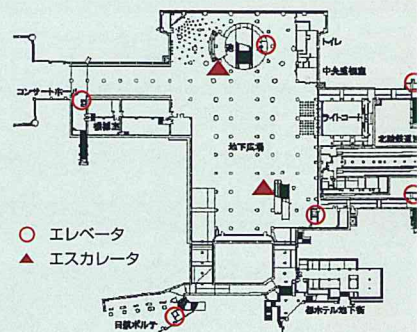
エレベータ



エスカレータ(工事中)



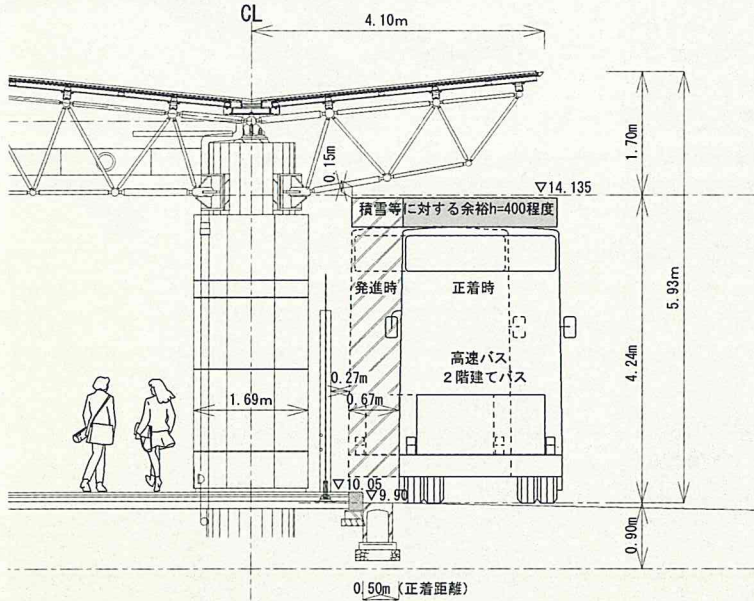
エレベータ



■エレベータ、エスカレータ位置図

### バスの正着

バスの正着とは、一歩でバス乗り場からバスのステップに乗れるようにバスを停車させることで、その距離は概ね50cmである。そのためバスの軌跡に合わせ乗り物の一部を削った形態をとっている。



■乗降場シェルターとバスの関係



正着に配慮したバス乗車場

### 障害のない通路と安全な移動



点字ブロックと2段手摺り



バス乗場の案内板



触知図とサイン

### 機能的なトイレ



ファミリートイレ



トイレ入口の触知図



トイレ入口

## 6 環境との共生 ～エネルギー・光・水の活用～

交通広場等の都市空間は無機質なものになりがちです。駅東広場で、次のような工夫により、環境にやさしい広場としています。

### ■乗降場シェルター～自然エネルギーの活用～

バス・タクシー・一般車の乗降場をぐるりと連絡しているシェルターは、大屋根と同様に利用者を雨や雪から守る屋根の役目をもっていますが、それだけではありません。屋根の上には約3,000枚の太陽電池パネルが組み込まれており、最大110kwの発電容量をもっています。太陽電池モジュールは、アモルファスシリコン太陽電池の上下を2枚のガラスで挟み込んだ建材一体型の構成になっています。太陽電池は光を通すシーソータイプを採用して、必要な明るさを確保するとともに、夏期の日差しから歩行者を守ります。発電した電力は地下の照明等に活用されます。

### ■もてなしドーム～雨水の利用～

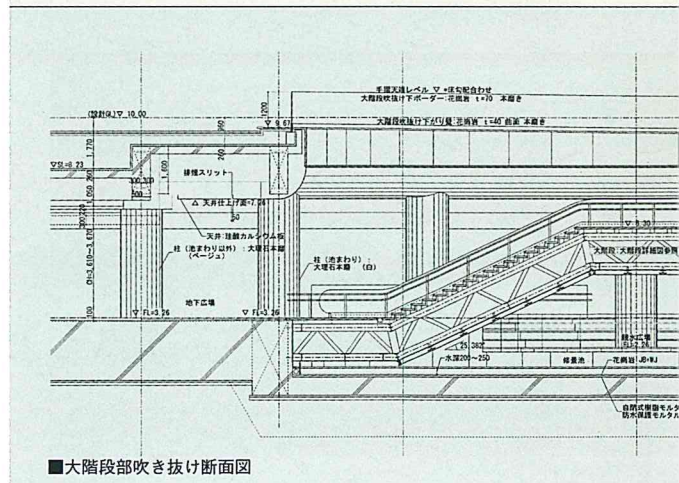
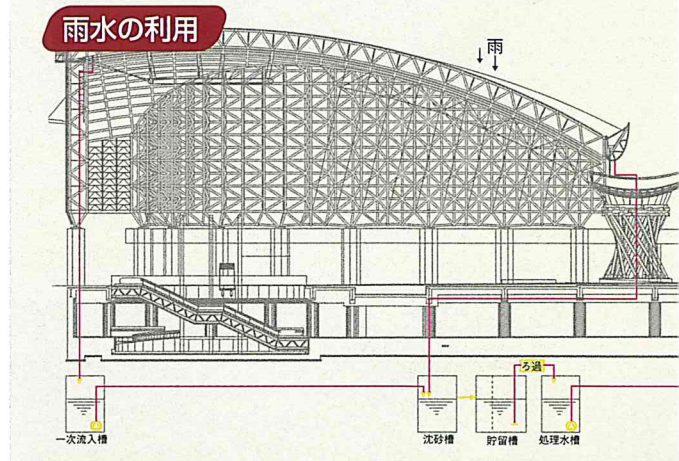
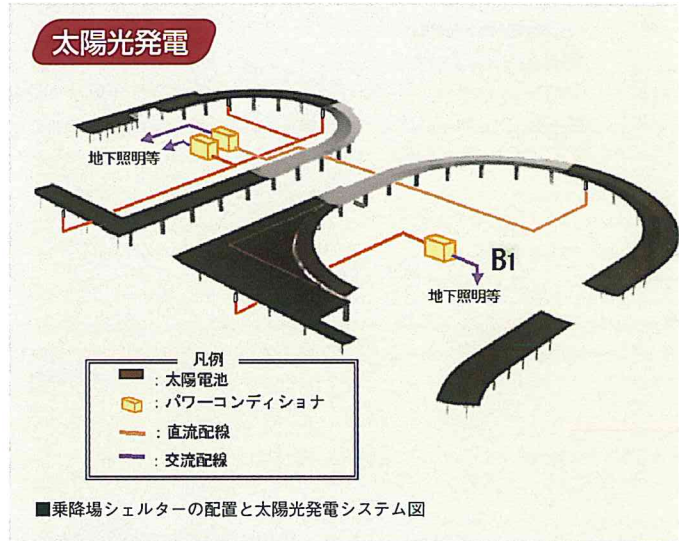
もてなしドームに降った雨水は、鼓門を經由して地下の貯水槽に貯留され、処理後、地下トイレの洗浄水及び地上やライトコート植栽の散水に利用されます。これにより駅広場での年間使用水量約7,000tの内66%をまかなえます。

### ■ライトコート～緑と自然の採光

緑豊かな広場空間整備として広場内には約2,600㎡の緑地を確保しています。地下広場には、十分な太陽光が差し込むようライトコートと地下池上部に円形開口部を設けています。自然の光が差し込む明るい地下広場です。

### ■構造と素材～ライフサイクルコストの削減～

- 施設をつくと当然ついてくるのが維持管理の問題です。これからの公共施設には、建設時に多少コストが高くても将来にわたっての維持管理費が少なくすむことが重要です。駅東広場は、次の方法によりライフサイクルコストの削減を図っています。
- 地上のバスターミナルは大型バスが走行し、舗装の痛みが激しい道路です。バスターミナル部の舗装は、耐久性の高い半たわみ性舗装を採用しています。
- 大屋根の構造素材はアルミニウム合金を採用しています。アルミ部材は錆の心配がありませんので、将来にわたって塗装などのメンテナンスをする必要がありません。大屋根のガラスはロボットにより全自動で行いますので、余り人の手間がかかりません。
- 地下の躯体には高強度コンクリートを用いています。ひびや割れに強く100年以上の耐用年数が期待されます。





## 7 修景施設～金沢の風景に習って～

犀川と浅野川の二つの清流。小立野台と寺町台の二つの台地。背景に望む卯辰山。兼六園の緑と雪吊り。市街地を潤す辰巳用水や大野庄用水。武家屋敷の街並み。このように金沢の風景は、歴史的景観と自然景観がみごとに融合し、これが金沢の魅力の一つとなっています。駅東広場は金沢市における伝統環境の保全及び美しい景観の形成に関する条例で「近代的都市景観創出区域」に指定されています。修景施設は、この金沢の風景に習って、「金沢らしさ」の創出を目指します。



大野庄用水



兼六園

### ■水の景

●金沢には用水の文化があり、まちの風景に潤いを与えています。その代表となる辰巳用水を地上広場入り口部の噴水池に引き入れて、水と親む庭園の伝統を、現代的な感性に置き換え導入します。噴水池はその高さや形態を様々に変え、池の中には水で文字を描く噴水時計が設置されています。噴水池からでた水は、湧水池で湧き出し、流れ、滝、地下池へと注ぎます。地下池に入った水は濾過され、地上の湧水池に循環されます。

### ■緑の景

- 駅東広場の景観は、駅通り線正面の鼓門ともてなしドーム及びその背景となる新幹線駅舎の水平ラインで構成されます。緑化計画は、これらの景観構成要素との調和を図ることを基本とし、兼六園に代表される金沢の緑の繊細な趣に習い、次のように計画します。
- 地上広場の四隅を押さえて広場の領域を明確にする高木植栽、金沢駅通り線の並木の連続性を確保し都心軸を協調するクロマツの並木等の「骨格となる植栽」と、バスロータリー中央部の緑の固まり、ライトコート の和風庭園、バス及びタクシープール植栽など、緑の量の確保を図るための植栽で構成します。

### ■灯りの景

●照明計画は、機能的に必要な照明をできるだけ美しく見せるように配置し、単独なポール照明はできるだけさけて、大屋根やシティゲート等の施設照明で対応しています。地上広場は、もてなしドームや鼓門をライトアップさせ、夜景の中に白いトラスが編み目のように浮き出して、夜間にもランドマークとして機能します。乗降場シェルターは、地上広場の主動線となるので、動線に沿って配置された蛍光灯により100lxの照度を確保し、歩行者を安全に誘導します。地下広場は、都心軸上に光天井を設け大規模な地下空間に方向性を与えます。

### 水の景



噴水池



湧水池

### 緑の景



クロマツの植栽

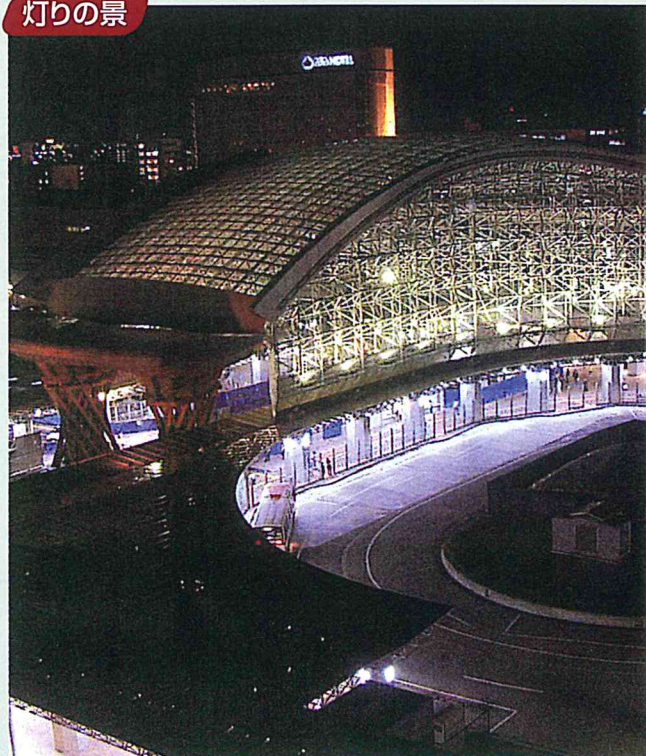


ライトコート



四隅の植栽

### 灯りの景



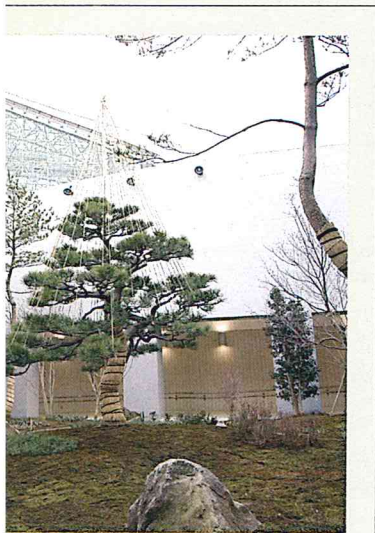
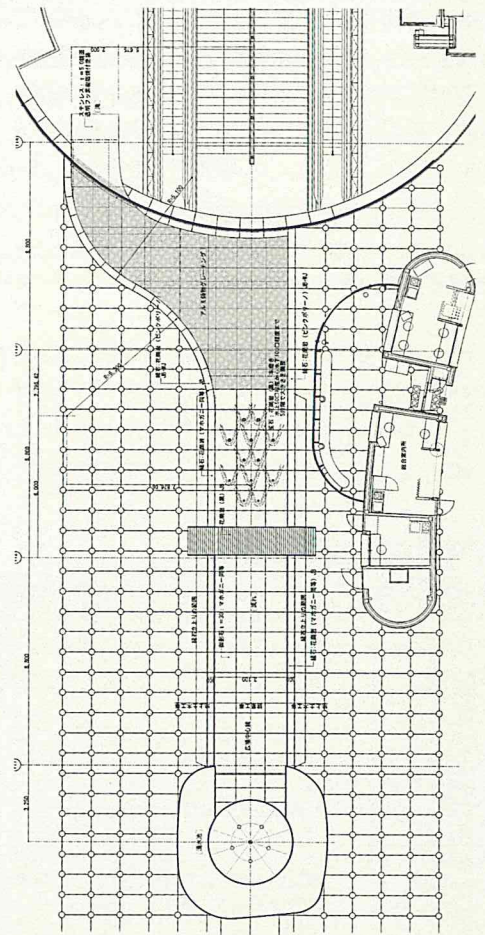
ライトアップされたもてなしドーム



流れ

滝

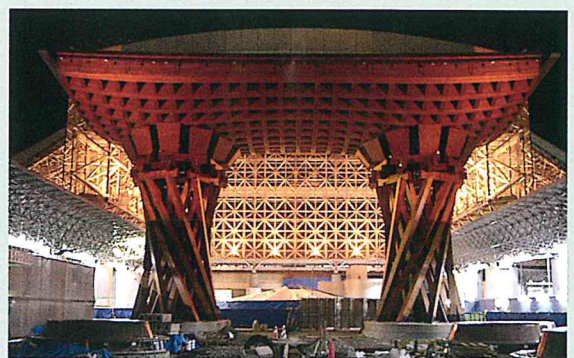
■水系の平面詳細図



地下池



ライトアップされた階段(工事中)



ライトアップされた鼓門



地下の光天井



大階段下LED照明

# 8 情報発信 ～出会いと賑いの形成～

駅周辺地区には観光情報センター、市民サービスセンター、市民アートホール、石川県立音楽堂等の施設が立地し、それぞれが専門性の高い活動や情報サービスを行っています。駅東広場には、これらの施設と連携を図り、駅周辺地区の交流と賑わいを創出するための拠点としての役割が期待されています。広場を多目的空間として活用するために、隣接する「石川県立音楽堂」との連携を図り、地下部に文化交流スクエアを一体的に計画し、各種情報を発信する情報コーナーを設置しています。情報コーナーには、50インチ12面のDLP方式マルチビジョンをはじめ、インターネットにより情報検索が行えるアクセスコーナーを設置しています。

このほか地上及び地下には、PDP（プラズマディスプレイ）及びLEDを内蔵した総合案内板を設置しています。これら様々な情報機器により、旅行者、通勤者、買い物客など広場利用者に対し、交通情報、生活情報、文化情報などを発信し、交流の場を創出します。

## 情報機器の種類と役割

		役割・配置
総合案内板	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅広場内施設案内と市内全般に移動するための位置情報</li> <li>・市内全域の目的地へ安全で確実な誘導がはかれる情報の提供</li> <li>・移動情報のINDEX</li> </ul>
	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅東広場地上案内図(1面、触知図)</li> <li>・市内広域案内図(1面)</li> </ul> </li> <li>●地下                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅東広場地下案内図(1面、触知図)</li> <li>・駅周辺案内図(1面)</li> </ul> </li> </ul>
12面マルチビジョン	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型画面と音声により情報に気づかせ、意識付けする</li> <li>・金沢市内を知るきっかけのINDEX</li> <li>・動画映像を利用してリアルな情報を提供し、情報に興味をもたせる</li> <li>・一度に複数の情報を表示し、各種の利用者に対して同時に効果を与える</li> <li>・可変であるために、常におもしろい情報を提供する</li> </ul>
	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地下                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下池横壁面(1台)</li> </ul> </li> </ul>
小型カラーディスプレイ 大壁用プロジェクター	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像によって情報を駅広場全域に拡散させる</li> </ul>
	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合交通案内所内(1台、音声付)</li> <li>・地上総合案内板内(1台)</li> </ul> </li> <li>●地下                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライコト前待合(1台、音声付)</li> <li>・中階段横(1台)</li> <li>・通路5壁面(1台)</li> <li>・地下広場壁面(プロジェクター1台)</li> </ul> </li> </ul>
アクセスコーナー	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅広場独自の金沢市内における詳細な情報の提供</li> <li>・個人の必要ジャンルに合った金沢市内情報の検索</li> <li>・市内詳細情報のINDEX</li> </ul>
	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合案内板内(1台)</li> </ul> </li> <li>●地下                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチビジョン横壁面(立操作2台/低位置操作1台/車椅子用1台)</li> </ul> </li> </ul>
LED文字表示装置	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発色する文字で積極的に情報に気づかせ、意識付けする</li> </ul>
	配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合案内板内(1台)</li> </ul> </li> <li>地下                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合案内板内(1台)</li> </ul> </li> </ul>

## 情報発信機器と配置



地上総合案内板



地下総合案内板



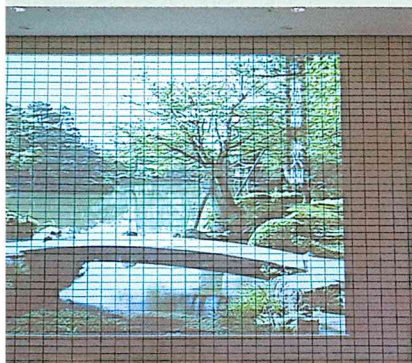
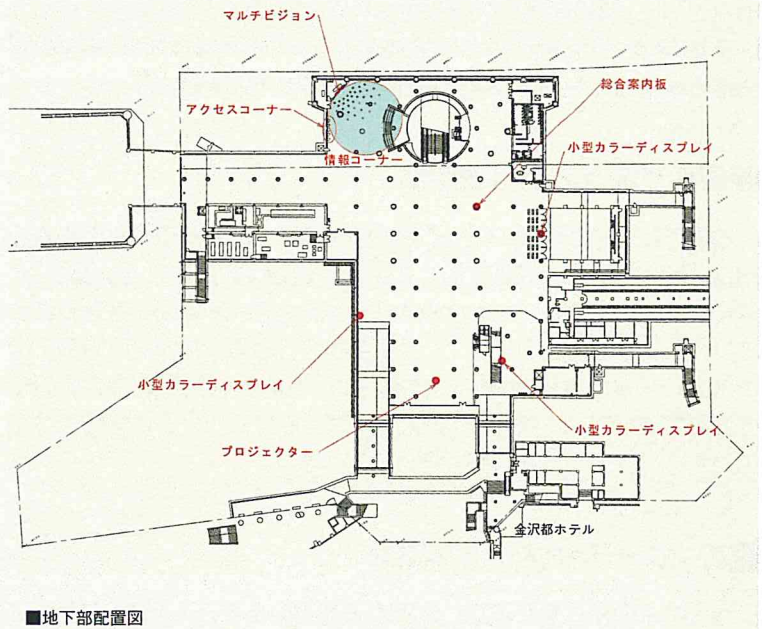
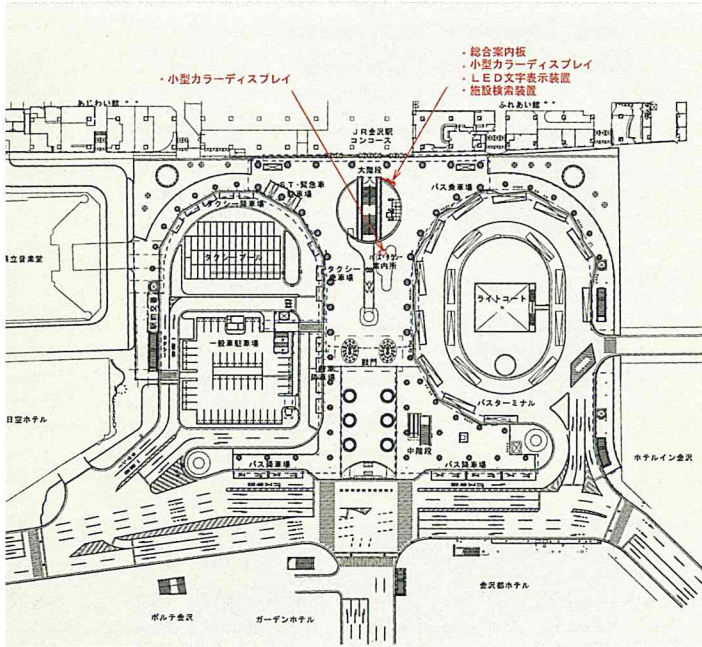
マルチビジョン



アクセスコーナー

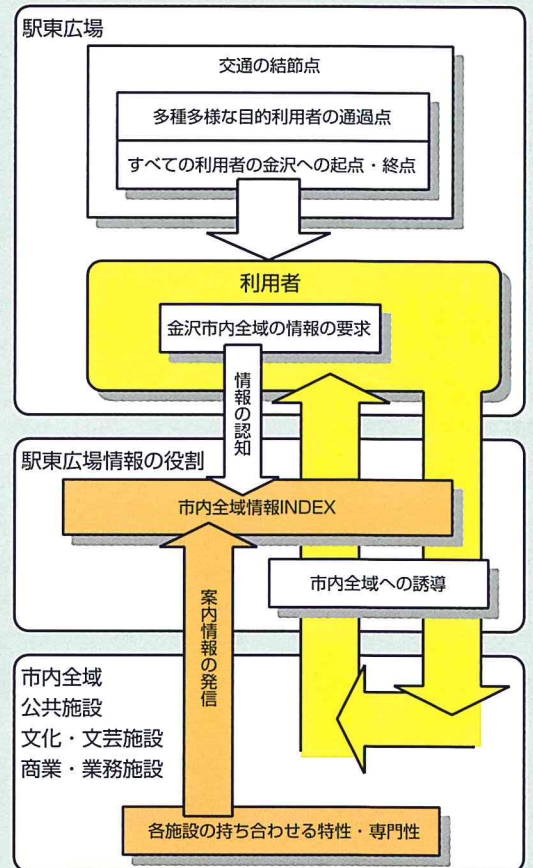


小型カラーディスプレイ



■情報のネットワーク～市内への誘導～

駅東広場の情報機器は市内全域に関する案内・誘導のためのインデックスの集積であることが求められます。市内にある各施設が、駅東広場で案内情報を発信することにより、施設への興味を誘発と誘導を活性化します。これは常に相互の協力関係にあり、このような情報の円滑な利用によって市内と駅との回遊性を促進させていくものです。



## 9 多様な地下広場空間 ~広場の活用 / 将来の変化にも対応 / 安全な

地下広場は、多雨多雪地域の金沢市において重要な歩行者動線となるとともに、情報発信や交流空間としての機能など多様な顔を持っています。また、安全性には十分配慮しているのは当然ながら、将来の新交通の導入に対応できるよう特別な工夫がされています。

### ■便利で快適な歩行者空間

広場の仕上げは明るいベージュ色を基調とし、駅周辺のホテルや石川県立音楽堂などと連絡する5本の地下通路が設置され、各通路ごとに、九谷の五彩によりわかりやすく色区分されています。各通路にはエレベーターが設置されていて、主要な動線となる大階段と中階段にはエスカレータが併設されています。また、北陸鉄道浅野川線の金沢駅と直接接続して乗り換えに便利です。ライトコートに面して休憩のためのベンチやトイレが設置されています。

### ■エンターテイメントな空間

地上の水の流れから連続した滝や池があります。バスターミナルの中央部に抜けた大きなライトコートには日本庭園が設けられ、地上からの光を取り入れるなど、できるだけ自然に近い地下広場の実現を目指しています。

広場の中央には約1,500㎡のイベント空間(多目的広場)が用意されています。市民の展覧会、パザール、ミニコンサートなど、隣接する石川県立音楽堂と連携を取り楽しい催し物が開催されます。

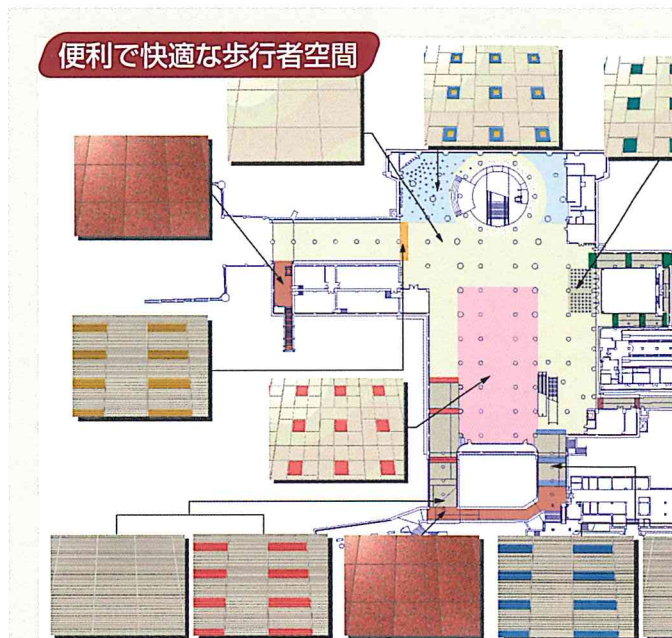
### ■安全な広場

地下広場は非常に公共性の高い施設です。高強度コンクリートを使用することにより100年以上の耐久性をもつ構造物としています。また、上部はバスターミナルとなっているためバスの移動や衝撃に対する配慮を行うなど、交通施設としての安全性には万全を期しています。消火設備としては、広場全域にスプリンクラーを設置し、防火シャッター、非常用放送や非常用照明、換気設備を備えています。そのほか、地上地下あわせて全部で50か所に監視カメラを設置し、各通路には防犯ベルを設置するなど十分な防災・防犯対策を行っています。これらの設備は中央監視室で集中的にコントロールされています。

### ■新交通への対応

地下広場の地下2階には、将来新交通システムの導入が計画されています。そのために次の工夫がされています。

- ①新交通のための駅務やコンコースなどの空間が確保されています。
- ②新交通工事に際し、地下広場を支持しやすい基礎形式(マットスラブ)とするとともに、仮受けのための鋼管杭を設置しています。
- ③将来施工しにくい部分に止水性のある連続壁を設けています。



広場の床仕上げの色

### エンターテイメントな空間



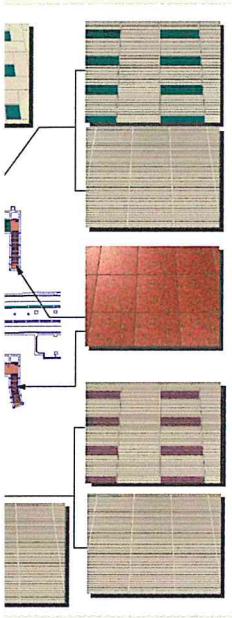
地下広場全景



地下女子トイレ



北陸鉄道浅野川線金沢駅



地下通路1 (石川県立音楽堂へ)



階段 (ホテルイン金沢へ)



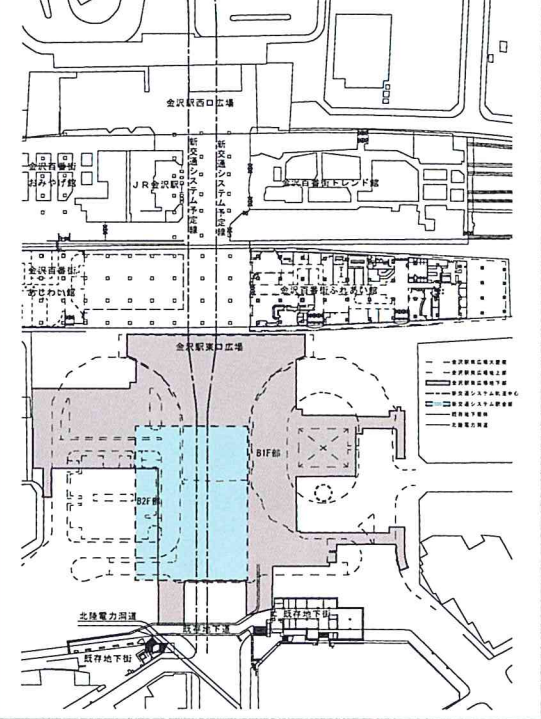
地下通路5 (ホテル日航金沢へ)

安全な広場

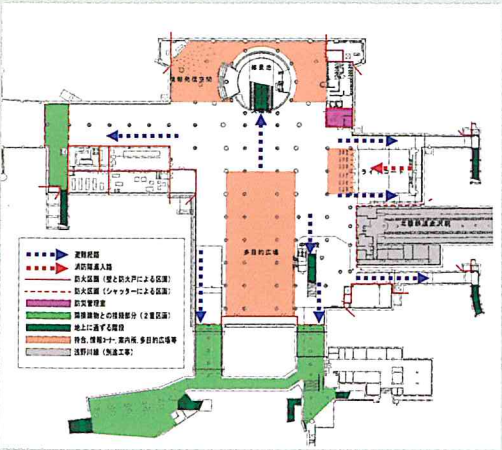


地下広場の待合い

新交通への対応



■ JR金沢駅周辺新交通システム計画(案)



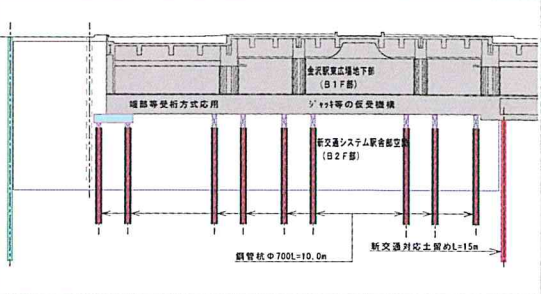
■防災計画図



中央監視室



機械室



■事前仮設、将来仮設計画断面図

平成4年度

平成5年度

平成6年度

平成7年度

平成8年度

平成9年度

平成10年度

平成11年度

計画・設計・施工

●金沢駅東広場整備基本計画策定調査

●金沢駅東広場予備設計

●金沢駅東広場基本設計

●金沢駅北土地区画整理事業起工式

●金沢駅東広場地下部実施設計

●駅東広場修景及び付帯施設詳細検討

●金沢駅東広場地上部実施設計

●北陸鉄道浅野川線移設地下化工事起工式

●一般駐車場仮設地移転

●金沢駅東広場地下部変更実施設計

●金沢駅東広場大屋根根実施設計

●バス暫定ターミナル利用開始

●JRとの造成協定締結

●金沢駅東広場整備工事起工式

●地下部築造工事第一工区着工

●北陸鉄道浅野川線の駅部工事着工

●JR西日本金沢支社ビル解体着工

委員会等

●金沢駅東広場および金沢駅通り線整備懇話会

●金沢駅東広場整備専門委員会

●金沢駅東広場プロデューサー会議

●金沢駅東広場大屋根構造研究会

工事の記録



■委員会  
広場計画は、各種委員会により検討された。



■着工前の金沢駅周辺地区  
中央の建物はJR金沢駅及び西日本支社ビル。奥はバスターミナル、手前はタクシー乗降場及び一般駐車場。



■金沢駅東広場整備工事起工式  
平成10年3月30日。起工式で挨拶に立つ山出保市長。



■平成13年3月28日  
北陸鉄道浅野川線移設地下化工事完成式典でテープカットをする山出保市長(左から2人目)。



■金沢駅東広場の完成模型  
平成9年実施設計完了。



■着工時(平成10年3月頃)  
一般車の乗り入れが出来なくなり、タクシープール、乗り場の移動が始まる。



■平成11年3月頃  
浅野川線駅部の山留工事が終わり、掘削工事の最盛期を迎える。JR西日本支社ビルは、9月から解体が始まる。



■平成13年9月  
バスターミナル完成のため、タクシー乗り場、プール、走路を2工区側に移動する。

平成12年度

- 北陸鉄道浅野川線供用開始
- 地下部築造工事第2工区着工
- バスターミナル築造工事着工
- バスターミナルシェルター工事着工

●金沢駅東広場地下空間デザイン専門委員会

平成13年度

- バスターミナル暫定供用開始

平成14年度

- シェルター建設工事着工
- 電気・給排水衛生・空調換気設備工事着工
- 建築仕上工事着工
- 大屋根建設工事着工

●金沢駅東広場大屋根技術管理検討会

平成15年度

- 情報発信器機設置工事着工
- 総合交通案内所設置工事着工
- シティゲート工事着工
- 地下部整備工事着工

- 金沢駅東広場大屋根愛称選考会
- 金沢駅東広場マルチビジョン番組制作検討会
- 金沢駅東広場マルチビジョン機種選考会

平成16年度

- 金沢駅東広場完成式
- 金沢駅前交番の開設
- 一般駐車場、乗降場供用開始
- タクシープール、乗降場供用開始
- バスターミナル供用開始
- 金沢駅東広場植栽工事着工

- ゲート名を「鼓門」と決定
- ドーム名を「もてなしドーム」と決定



■平成15年2月末  
2月6日にタワークレーンが設置され、大屋根施工が始まる。



■平成16年1月  
シティゲートの柱部の建て方が完成し、屋根工事にかかっている。



■平成16年9月  
バスターミナルが完成し、全面供用開始。



■平成17年2月  
地下の仕上げ工事が急ピッチで進む。



■平成15年6月  
大屋根の壁面の組み立てが終わり屋根工事にかかっている。



■平成16年4月  
曳家が完成し、大屋根の大樋の下にシティゲートが納まる。



■平成16年10月  
シェルターの駆体工事が完了し、太陽光パネルが設置される。



■平成17年2月中旬  
一般駐車場など一部を除き工事が終了し、植栽工事が始まる。

# 第2編 もてなしドーム誕生物語

## 金沢駅東広場(もてなしドーム)の考え方

小堀為雄<sup>※</sup>

### はじめに

このレポートは先に金沢市で行なわれた全建・建設技術講習会の基調講演の一部に補足、加筆してまとめたものである。21世紀の駅前広場の有り様を、金沢駅東広場を例に論じた。今後の駅前広場整備に参考になれば幸いである。

### 1. 駅前広場の歴史は鉄道の歴史でもある

わが国の鉄道の歴史は明治5(1872)年新橋から横浜までの開通から始まる。その後、鉄道は全国に普及し、第2次世界大戦までには軍隊の移動手段を含め、人々および物資の輸送手段として重要な使命を果たしてきた。さらに終戦後は荒廃した国土の復興に、また国民の生活向上に果たした役割は大きく、鉄道全盛期である。この時期までを鉄道第1期と呼ぶことができよう。その後、わが国の道路整備が進み、さらに自動車生産技術の進展で、自動車時代の到来をもたらした。その先駆となったのが、名古屋から神戸に至る名神高速道路の開通である。その後、次第に鉄道輸送は自動車輸送に替わり、全国に広がる高速道路網や一般道路の整備が進み、自動車社会を迎え、自動車万能時代となり、鉄道から道路へとシフトされてきた。この時期までが鉄道第2期時代である。しかし、道路の渋滞と

事故の発生は年々増加をたどり、21世紀に入って、鉄道、道路、航空、航路とあらゆる交通手段の総合化、交流化が叫ばれる時代となってきている。この時代が鉄道第3期の始まりである。

駅前広場は鉄道の歴史に追従して、第1期の時代にあっては、主要駅の広場は軍隊の集合と出発のための広場としての機能が大きく、一般に広い面積が確保されていた。同時に当時の鉄道は、主要都市にあっては比較的、都市の中心街から離れた位置にあり、駅前商店街を形成するに至らなかった。第2期に入り、鉄道と道路の接点、すなわち鉄道と自動車交通の接点としての機能が重視され、バスやタクシー、自家用車のターミナルやモータープールとなってきた。しかし、第3期に入り、自動車のみではだめ、鉄道のみでもだめ、と考えられ、さらに交通の接点のみならず市民の交流の場として、都市計画上重要な広場機能が要求されるようになってきた。

### 2. 機能上から見た駅前広場

わが国における駅前広場について、(財)豊田都市交通研究所が「これからの駅前広場」で興味ある分類をおこなっているため、ここで紹介しておく。

#### ■交通ターミナル型

①交通拠点機能：小牧駅東・西広場(バス・タクシー・乗用車

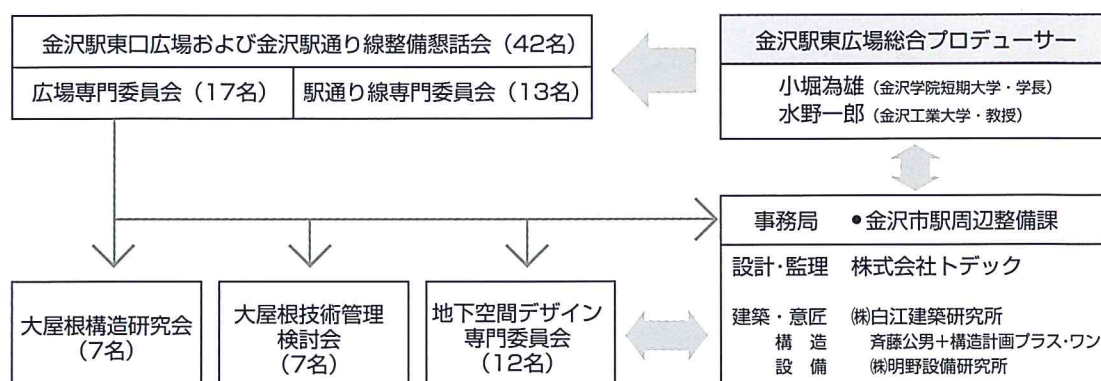


図1 金沢駅東広場懇話会及び委員会と設計グループ組織図

を分離) など

- ②バス交通施設：JR船橋駅船橋北口交通広場(島(円形))、盛岡駅前広場など
- ③自動車交通導線処理：掛川駅北口広場、鳥取駅南広場など
- ④乗り換えやすさ：名鉄豊田市駅前交通広場、金沢西口広場、呉駅前広場、
- ⑤福祉対策：前橋駅南口広場(駅を含めて福祉対策が細部に整備されている)
- ⑥駐輪対策：春日井駅西口広場、志紀駅東口駅前広場
- ⑦P&R(パーク・アンド・ライド)用駐車場：十和田市駅前広場、
- ⑧情報提供機能：浦和駅西口広場、大分駅前広場、目黒駅西口広場

⑨ビジネス型(周辺建築物と一体化)：仙台駅西口広場(ペデストリアンデッキ採用) など

⑩都市機能型

- ①都市景観の向上を図るため、噴水やモニュメントによって都市のシンボル性を重視した広場：大垣駅前広場、浜松駅北口駅前広場(島式バスバース)
- ②歩行者広場：黒崎駅前広場、安城駅南口広場、丸亀駅南口広場
- ③交流広場重視型：掛川駅北口広場、北見駅前広場(イベントスペースを確保)

### 3. 都市計画上の駅前広場

第3期の駅前広場、すなわち21世紀の駅前広場は、先に論じたように、交通の接点であると同時に市民交流の広場である。さらに都市の玄関口として見直されるようになってきた。すなわち都市計画上、都市の玄関口広場と位置づけられ、金沢市においても、都市の顔として近代的都市景観創出区域として整備されている。

### 4. 金沢駅東広場整備計画のスタート

金沢駅は在来線の高架化に伴い駅業務は高架下に入り、さらに駅地下にあった駅デパートや飲食街は高架下で百番街として営業を開始した。さらに在来線の撤去した跡の敷地は北陸新幹線用地として確保され、先行投資による連続立体工事が行われ、東広場整備が急務を要した。

平成元(1989)年金沢駅東広場整備に関する懇話会がスタートした。

図1は懇話会からドーム建設に至るまでの各委員会の流れ図である。今回の金沢駅東広場整備にあたっては各種専門委員会と優秀な設計グループとの車の両輪で計画され、実行されたことは今後、公共の整備計画に大いに参考になるものとする。

さて、委員会で21世紀に向けて新幹線の開通や第3世代の駅前広場としての交流広場など金沢の発展を考慮すると、現



図2 金沢駅東広場完成予想図

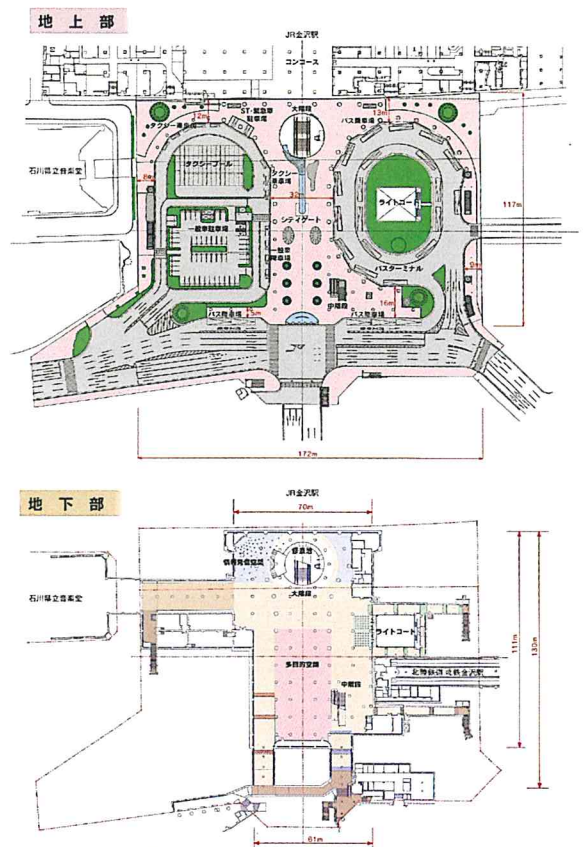


図3 駅東広場利用計画図

状では狭隘であるとの意見が多数を占めた。このことを受けて石川県、金沢市、金沢商工会議所からJR西日本本社に対して、駅業務機能の高架下への移転、支社業務の駅西地区への移転が陳情された。JR側の理解で、駅前広場面積は計画当初の17,800㎡(S29都決)から27,000㎡(H7都決)と約1.6倍に拡大された。

金沢駅東広場は、市内最大の交通ターミナルであり、市街地中心部、特に、平成16(2004)年10月にオープンした金沢21世紀美術館をはじめとした、金沢の表玄関である。新しい都市軸として導入され、金沢のシンボルロードとなる金沢駅通り線、いわゆる「賑わい回廊」の始まりの場所でもあり、今後、長期にわたり都市景観の骨格を担う施設である。

世界都市として大きな飛躍を期待される金沢のシンボル広場、21世紀の駅前広場は市民交流の拠点であるとの認識で、世界に誇れる「Only 1」広場を目指すべきである。

## 5. 駅東広場整備の基本方針

- 1) 「伝統の広場」を近代的都市景観創出区域で計画するにあたり、伝統そのものではなく、あえて「金沢らしさ」を表現する。
- 2) 「歩行者優先型広場」の考え方を反映し、充実した歩行者空間の確保を図るとともに、バリアフリーの考え方を徹底する。
- 3) 交通ターミナルとしての機能が適切に果たせる計画とする。
- 4) これらの結果として、来訪者のみならず市民の交流の場と



図4 地下広場完成予想図

して、世界に発信できる広場として整備する。

## 6. 駅東広場整備計画

最終計画は図3のようである。

- 1) 全体を「工(たくみ)」型とする。
- 2) 駅舎に向かって右の空間をバスターミナルとし、左をタクシー・自家用車のモータープールとする。
- 3) 「工」型の中心部を大きく確保して歩行者空間とする。
- 4) バス、タクシー・乗用車の乗降バースにはシェルターを施す。

## 7. 駅東広場の意匠計画

すでに述べたように駅東広場は、長期的にみると高層ビルで囲まれることが予想される(石川県立音楽堂はその時点ではない)。周囲のビルの外観や大きさとの関係を考慮し、意匠方針を検討した結果、この広場は現代的な雰囲気を基調とするとともに施設を集約して、シンプルでおおらかな造形とする。また、周囲の環境から、上空からの視点にも配慮した屋根計画とする。

広場の景観を構成する大屋根、乗降場の庇、新幹線駅舎のファサード、植樹などはそれぞれが個性を感じながら、全体として調和を保ったおおらかで力強く、金沢らしい景観を構成する。



図5 ドーム足場とフレーム組立中(平成15年6月撮影)

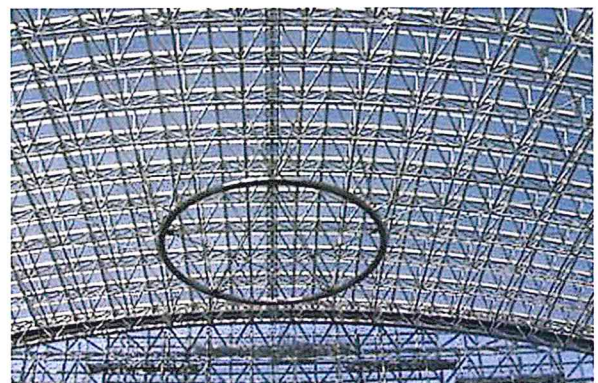


図6 ドーム中央のテンションリング(平成16年2月撮影)

これによって、雨や雪の多い金沢にあって「そっと傘を差し掛ける「おもてなしの心」を表現する」こととした。さらに、「古くて新しい」「新しく古い」金沢を表現するため、わが国最新技術によるアルミ立体トラスフレームとガラスの大屋根を実現することができた(図5、6、7、8、9)。

つぎに、ドームの主な諸元を示す。

構造:アルミ合金立体トラスと張弦材のハイブリッド構造

テンションリング(天上の輪):直径12m

球面の直径(大屋根球面の直径):180m

駅舎側の長さ:79m

奥行き:60m

最高高さ:29.5m

ガラスの枚数(1.5X1.5m):3,019枚

その後、ガラスドームの愛称募集が行なわれ、4,713通のなかから「もてなしドーム」と決まった。

その他、広場の主な諸元を上げておく。

広場面積:27,000㎡

バスターミナル面積(16バス):約3,500㎡(走路のみ)

タクシー・自家用車プール面積:約4,550㎡(走路を含む)

(タクシー57台、自家用車45台)

中央広場面積:約3,000㎡

地下広場:10,550㎡

「ドーム建設工事については工事記録誌を参照されたい。」

## むすび

21世紀を迎えた、いま金沢は「世界のオンリー・ワン都市」をめざして動き出した。その象徴が金沢駅東広場の建設であり、都市中心部の金沢21世紀美術館である。駅東広場は都市内外から金沢へ訪れる人々の出会いの場を、21世紀美術館は人々を呼び込み、学びと遊びの空間を提供し、さらに、町に活力を与える。この2つのガラスの建造物は世界都市金沢の活力と魅力を創造する。

## 引用・参考文献

- 1) 金沢駅東広場整備計画:金沢市
- 2) 金沢駅東広場工事記録誌:金沢市、2005年
- 3) これからの駅前広場:(財)豊田都市交通研究所、1995年
- 4) 特集 まちづくり考「金沢モデル」:地域開発vol.473、(財)日本地域開発センター、2004年
- 5) 駅再発見の旅:岡 並木、NTT出版、1992年
- 6) 「世界都市を目指す金沢戦略」:全日本建設技術協会、講習会資料、2004年

※工学博士、金沢駅東広場および金沢駅通り線整備懇話会座長、金沢大学名誉教授、金沢学院短期大学名誉学長、土木学会名誉会員



図7 駅東広場整備状況(愛称:もてなしドーム)(平成16年6月撮影)



図9 市松模様をかもし出す(平成17年2月)

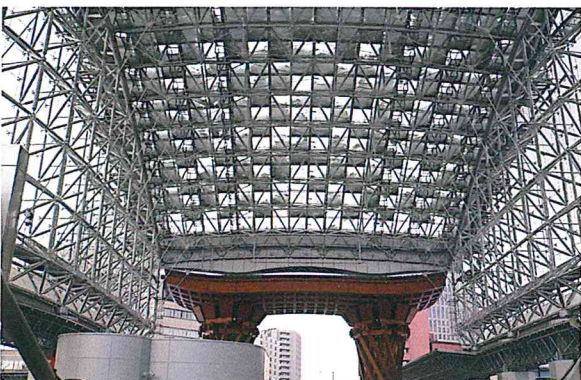


図8 雪の日の不思議な光景(平成17年2月)

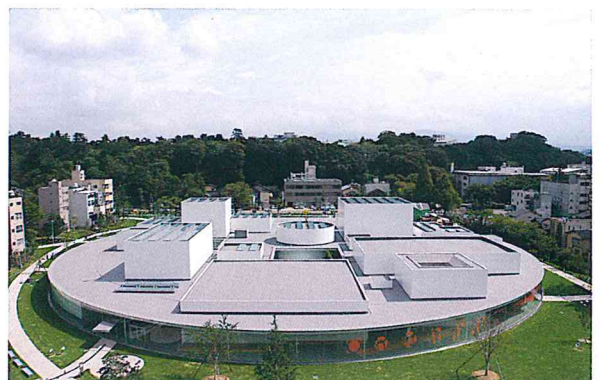


図10 金沢21世紀美術館(愛称:まるびい)(平成16年6月撮影)



## 市民憲章

金沢を愛するわたくしたちは、兼六園の四季のいろどり、犀川・浅野川の清い流れ、山や街のゆたかな緑、かおり高い伝統文化をほこりとし、希望と活力にみちたはたらく基盤と、創造性あふれる教育・文化の華さくまちづくりにつとめます。

- 1 ひらこう 世界と未来に 心の窓を
- 1 めざそう いきいきと明るい 暮らしの創造を
- 1 まもろう 美しい心と ふるさとの自然を
- 1 つなごう みんなの力で まちづくりの手を
- 1 きずこう 個性ゆたかな あすの金沢を

金沢駅北土地区画整理事業  
**金沢駅東広場**

あらたな伝統の創造をめざして

- 発行日 平成17年3月20日
- 発行 金沢市都市整備部駅周辺整備課  
〒920-0852 金沢市此花町3-2  
tel076-221-5338

